

活動報告

団体名	螢火
活動名	令和3年8月豪雨による福岡県久留米市における水害家屋復旧活動
活動期間	2021/08/17~2021/09/16
活動の成果	<p>近年、九州地方では毎年豪雨災害に見舞われており、ここ久留米市は4年連続で筑後川支流の内水氾濫による浸水被害に遭っています。そのためか、浸水被害の件数が多い割にはボランティア要請が少ない現状がありました。お話を伺ってみると「毎年のことだから」「うちは床下だけで済んだから」とご家族だけで濡れた家財を片付けている状況を多く見受けられました。広域の水害で「うちより大変なお宅があるでしょうから」と遠慮される方が少なくありません。内水氾濫は、扉を締めてしまうと外からはその被害状況がわかりにくい、という特徴があり、汚れた家財を清掃センターに運び出してしまえば、もう終わったかのような雰囲気になってしまいます。</p> <p>今回活動させていただいた久留米市城島町浜地区も、一見水害に遭ったとはわからないくらい静かな場所でした。しかし、実際の家の中は床や畳がふわふわにたわんでいたり、畳を上げたままの状態ですっとお住まいになられていたり。綺麗に見えるお宅でも、床下はまだ乾いておらず、汚れやカビの発生が見られていたりしていました。中には、毎年の水害によるものか、カビで真っ白になった床下や、シロアリが発生してしまった床下もありました。床下の木材を腐らせる環境とシロアリの発生させる環境が同じであることは一般の方はあまり知られていません。床下の浸水だけの被害であっても、家屋には大きなダメージになることもある、今回そのことを理解してくださった方々からのお声掛けが広がり、多くのお宅の床下の確認作業や清掃をさせていただくことができました。</p> <p>この浜地区の「普段からの繋がり」の強さや大切さを感じ、私達の目標であり課題でもあった「繰り返される水害に対して落胆してらっしゃる方をどこまで前向きにできるのか」に、答えを一つ頂いたようでした。知識を持った人が地区にいて、浸水被害に遭ったときの初動を地域でフォローできれば、家屋へのダメージを最小限にすることができます。こうしたその地域に合った防災力を高めることは、また来るかもしれない困難に前向きに対処できる力を備えることとなります。</p> <p>「なぜ、床下浸水を放置してはいけないのか」このことを、広く住民の方に知っていただく必要性を私達も情報共有会議等でお話させて頂きました。久留米市をはじめ、近隣のうきは市、朝倉市、水害に見舞われた大牟田市での講習会にお声掛けいただくようになり、少しずつですが市民向けの浸水被害対策や床下作業支援者育成に繋がっています。</p> <p>コロナ禍にあつての災害に、自分の地域は自分で守る意識が高まってきました。私達も、その意識に力添えできるように、平時も学びを怠らず、市民の皆さんと地域防災力を強めていきたいと考えています。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>今回の令和3年8月の豪雨災害被災地福岡県久留米市において、主に浸水被害にあった家屋の床下清掃活動をさせていただきました。床下清掃活動は一日で終わるものではなく、まず床下を乾燥させるためのサーキュレーターの設定、汚泥の撤去や床下設備のカビや汚れの清掃・消毒、そしてまた乾燥、と日数がかかる</p>

上、居住を伴っていることが大半です。被災された方の生活スタイルをなるべく崩さなくていいよう、細かに通って寄り添う作業をできたのも、みなさまのご寄付あってのことです。ありがとうございました。

(活動のようす)

